

新川崎地区新設小学校基本計画検討委員会
教育理念 WG
第一回議事録（案）

1. 日時 8月12日（月） 13:00～15:00

2. 場所 明治安田生命川崎ビル第2会議室

3. 配布資料

資料 1-1 検討委員会議事録（案）

資料 1-2 教育理念 WG 検討計画（案）

4. 討議内容

1) 検討委員会の議事録の紹介（資料 1-1）

検討委員会（第一回）の議事要旨案について紹介を行った。

2) 検討計画について（資料 1-2）

①検討課題について

- ・ 教員は、施設に応じて教育活動をどう展開するか、という発想にとらわれがちであるが、児童に対しての教育面から施設を考え直すという新たな気づきを頂いたと考えている。

②アンケートについて

（討議内容）

- ・ 学年毎に内容が異なるので、低・中・高程度の区分で良いかもしれない。
- ・ 少人数分割や取出し学習のような必要性が算数以外の教科としても、ニーズとして汲み出てくれば、施設整備という視点での展開に繋がりがやすい。

③ワークショップについて

- ・ 学習指導要領上の各教科の時間数は押さえておく必要がある。それにより必要となる教室の数が明確となるので、一期工事でどこまで対応するか検討項目を明確化する必要がある。
- ・ 学年的なまとめりで動く頻度等もランチルーム、多目的スペースのニーズを把握する上で重要な情報となる。

以上

新川崎地区新設小学校基本計画検討委員会
教育理念 WG
第二回議事録（案）

1. 日時 10月23日（水） 9：30～12：00
2. 場所 第4庁舎第4会議室
3. 配布資料
 - 資料 2-1 前回議事録（案）
 - 資料 2-2 他都市小学校視察記録
 - 資料 2-3 教育理念 WG の検討フロー
 - 資料 2-4-1 学習活動に関するアンケートシート
 - 資料 2-4-2 学習活動に関するアンケート集計結果
 - 資料 2-4-3 学習活動に関するヒアリング結果概要
 - 資料 2-5-1 デザインワークショップ開催概要
 - 資料 2-5-2 デザインワークショップにおける意見のまとめ
 - 資料 2-6 調査結果等の意見を反映した基本計画案
 - 資料 2-7 理科教育の拠点校について検討状況
 - 資料 2-8 スケジュール
4. 討議内容
 - 1) 前回議事録の紹介（資料 2-1）
 - ・前回 WG（第一回）の議事要旨案について確認を行った。
 - 2) 他都市小学校視察報告（資料 2-2）
 - ・事務局より、千葉市美浜打瀬小学校、流山市小山小学校、杉並区天沼小学校の視察報告を行った（意見）
 - ・小山小学校のオープン型の職員室の考え方は良いと思った。同時に児童の情報を保持するための工夫も必要かと思われる。
 - ・天沼小は環境配慮の取り組みを学習に上手に活用している印象を持った。その他、建具の透過性を確保して空間の視認性を高めるなど、細かな配慮が多くあった。
 - ・美浜打瀬小は斬新な取り組みが多く、子どもたちが活用できる場所が多くあったと思う。学校周囲のフェンスがないのは、都心部である川崎では難しいかもしれない。
 - ・階段状に学年クラスターを作っているので、落ち着いた教室間の連続性が保たれているという印象があった。
 - 3) 教育理念 WG における検討のフロー及び各調査内容について
 - ・事務局より、検討フロー、アンケート、ヒアリング、ワークショップの実施概要及び主要な調査結果について報告を行った。これらの調査結果から、単位空間の設え、諸室の配置・構成等を検討していく（事務局）。
 - 4) 主要な諸室の考え方について（普通教室廻りについて）

- 基本構想を受け、調査内容を考慮した諸室の考え方について事務局より案の説明を行った。

(意見)

- 低学年の音楽を普通教室で行うことを前提としているのは配慮が必要になると思う。遮音、吸音を行っても、音漏れは防ぎきれない。指導要領上の占有率からも検討する必要がある。
- 普通に利用すると、音楽室は24クラス相当で8.2時間/日となる。一方で、生活科室は4.8時間/日なので、そちらとの組み合わせで考えたい(事務局)。
- 中高学年には教師コーナーがあるのは良いが、代わりに教室内に机・椅子がない。実際には教室で過ごす時間が多く、給食指導のことも考えると、教室内に机・椅子は必要だと思う。
- 教材庫が学年単位であるのは良いと思う。教師コーナーは敢えて設えず、周辺の什器を集めればそこで打ち合わせが可能な程度の考え方が良いかもしれない。
- バルコニーでの安全確保と、開放感を両立することは難しいと思う。バルコニーを作るのであれば、中途半端な形ではなく、一直線に相応のスペースを設けたほうが良いかもしれない。
- バルコニーがあると外壁や開口部のメンテナンス容易性という点では有用である(事務局)。日射遮蔽や断熱を含めて、サンルーム的に設けるという考え方もあるが、床面積も大きくなってしまったため、本日の意見を受けて改めて整理する(事務局)。
- オープン型の普通教室でかつ、バルコニーもあると収納のための壁が前後だけとなってしまう、量の確保が難しいかもしれない。
- 収納量のラフな調査を行う予定であり、留意点として整理するつもりである。(事務局)
- 低学年は移動が少ない方がよい。ただし、低学年の鍵盤ハーモニカは大変大きな音が出る。学年で音楽の時間割を揃えるなどの工夫もできる。
- 生活科室を防音仕様にし、音を出さず活動に配慮したいと考えている。(事務局)
- オープン型の普通教室は、子どもたちは比較的すぐに慣れてしまう。ただし、教員は慣れるのに時間がかかる。
- 教室の広さは子どもたちの落ち着きに大きな影響を与えると思う。あまりに机の距離が密集してしまうと、落ち着きがなくなるので、広さが確保できることは望ましい。
- 個人差はあるが、パーソナルスペースの考え方に配慮する必要がある。
- 中高学年においても普通教室は広い方が良い。公立の小学校では児童数の増減によって学年クラスターが崩れてしまうことがあるので、あまり大きな設えの変化はつけるべきでない。
- 解体可能なDEN等を設置するという考え方もある。また、DENのベンチコーナーの下に収納スペースが確保できると良い。
- 天沼小学校は小教室が多くあり、これをDEN的に利用することもできると思う。

5) その他

- 教室廻りの掲示については、量、掲示期間を踏まえてゼロエネへの配慮と併せて次回に検討する予定。

以上